

平成 20 年度  
森林及び林業の動向

平成 21 年度  
森林及び林業施策

第171回国会（常会）提出

この文書は、森林・林業基本法（昭和39年法律第161号）第10条第1項の規定に基づく平成20年度の森林及び林業の動向並びに講じた施策並びに同条第2項の規定に基づく平成21年度において講じようとする森林及び林業施策について報告を行うものである。

## 森林のもつ多面的機能



### ① 生物多様性保全機能

遺伝子保全、生物種保全、生態系保全

### ② 地球環境保全機能

地球温暖化の緩和(CO<sub>2</sub>吸収(1兆2,391億円/年)、化石燃料代替(2,261億円/年))、地球気候システムの安定化

### ③ 土砂災害防止機能/土壤保全機能

表面侵食防止(28兆2,565億円/年)、表層崩壊防止(8兆4,421億円/年)、その他土砂災害防止、雪崩防止、防風、防雪

### ④ 水源かん養機能

洪水緩和(6兆4,686億円/年)、水資源貯留(8兆7,407億円/年)、水量調節、水質浄化(14兆6,361億円/年)

### ⑤ 快適環境形成機能

気候緩和、大気浄化、快適生活環境形成

### ⑥ 保健・レクリエーション機能

療養、保養(2兆2,546億円/年)、行楽、スポーツ

### ⑦ 文化機能

景観・風致、学習・教育、芸術、宗教・祭礼  
伝統文化、地域の多様性維持

### ⑧ 物質生産機能

木材、食料、工業原料、工芸材料

資料：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」及び同関連付属資料(平成13年11月)

注1：括弧書きは貨幣評価額であり、機能によって評価方法は異なっている。また、評価されている機能は多面的機能全体のうち一部の機能にすぎない。

注2：いずれの評価方法も、「森林がないと仮定した場合と現存する森林を比較する」等一定の仮定の範囲においての数字であり、少なくともこの程度には見積もられるといった試算の範疇を出ない数字であるなど、その適用に当たっては細心の注意が必要である。

## 林業・木材産業の活性化を目指して

林業・木材産業の活性化に向けて、全国で様々な先進的な取組がみられます。このうち、その内容が優れており、広く社会の賞賛に値するものについては、毎年、秋に開催される農林水産祭において天皇杯等三賞が授与されています。

平成20年度の受賞者の概要を紹介します。

### 天皇杯

林産部門 出品財 産物（木材）  
株式会社 日田十条（代表 瀬戸 基彦 氏）  
大分県日田市

日田十条は、スギなど地域の豊かな森林資源を背景に、JAS製材品をはじめ割れや曲がりの少ない高品質な大分方式乾燥材等の生産に取り組んでおり、大分県産材の需要拡大に寄与している。また、原木市場を介さずに森林組合との直接取引を行うことで流通の合理化に取り組み、これによるコスト削減分を所有者へ還元することを試みている。さらに、林地残材や家屋解体廃材等を人工乾燥材用ボイラーの燃料として活用するなど、環境保全と資源循環にも配慮している。



### 内閣総理大臣賞

林産部門 出品財 技術・ほ場（苗ほ）  
大原 繁 氏 宮城県東松島市

大原氏は、50年以上にわたり苗木生産に取り組んでおり、現在は1.1haの苗畑でスギやヒノキなどの苗木を年間4～5万本程度生産している。家族経営を基本とし、所有機械の改良・工夫により作業の効率化を図るなど、支出を抑えて労働生産性を高めている。また、マイクロカッティング法（通常より小さなさし穂から大量に苗木を生産する技術）による少花粉スギ苗木の生産など、先進的な技術を導入し、将来を見据えた苗畑経営を実践している。



### 日本農林漁業振興会会長賞

林産部門 出品財 経営（林業）  
帝国造林 株式会社（代表 植竹 雅弘 氏）  
栃木県大田原市

帝国造林は、約700haに及ぶ県内有数の規模の社有林を保有し、毎年一定量の材を安定的に生産する輪伐期施業に取り組んでいる。木材生産のほか、しいたけ用原木の生産やヒノキ残材を活用したペット用トイレ資材の製造販売を行うなど、多角的な経営を行うことにより安定的な経営を実現している。

